

豆類技術情報 No. 3

平成30年8月22日

大豆生産者各位

J A大湊村営農支援課
大湊村豆類生産組合

豆類生育状況と今後の管理について

本作大豆の生育は葉令、草丈共に平年より遅れて推移しております。

また、先日の大雨により小麦後作大豆を中心に長時間の停滞水による葉枯症状が見受けられます。被害のあったほ場ではN成分2kg/10aを目安に草勢の回復に努めて下さい。

また、本作圃場主体にミツモンキンウワバ、ウコンノメイガ等の害虫が発生しておりますので、食害が多い圃場では防除に努めてください。

1. 雑草の除去

茎葉除草剤散布後に、大型雑草(タデ類、イヌホオズキ、アカザ、シロザ)の残草が多い圃場では、今後、手取り除草等の対策を行ってください。放置したまま収穫作業を行うと、汚損粒の原因となりますので注意してください。

2. 病虫害防除

1) マメシンクイガ対策

着莢期～肥大期にトレボン粉剤DL4kg/10aを散布してください。また、トレボンエアーによるラジコンヘリでの防除も可能です。

3) ミツモンキンウワバ、ウコンノメイガ（葉巻症状）

現在、幼虫による葉の食害が村内全体で見られております。食害が多く見受けられる圃場では、マメシンクイガ対策も兼ね、上記トレボン剤で対応してください。

3. 浸水・冠水ほ場での対策

- 1) 第一にほ場の排水をはかります。畝の方向で停滞水が残るほ場は、畝を切って近い明渠へ導水します。茎葉の損傷などが発生した場合、細菌病等の発生源になりやすいので、排水が進んだら直ちに防除（茎疫病対策 Zボルドー粉剤DLを3kg/10a）を行います。葉に泥が付着している場合は、光合成作用を阻害するため、防除と作物の洗浄を兼ねて実施します。薬剤は基準の範囲内で濃度を下げ、散布する薬液量を多くすることで株全体に薬剤が付着するように作業します。
- 2) 開花前的大豆は、中耕・培度によって新根の発育を促し、草勢の回復を図ります。同時に追肥を行う場合、N成分2kg/10aを散布し培土します。また、冠水による被害軽減のための殺菌剤散布を行う場合は同時に尿素による葉面散布を行うことも可能です。
(尿素現物1kgに対し、水量100L/10a)

※草勢が低下していることから、薬害が発生しやすい状況となっております。薬剤防除の際には薬害に十分注意し、気温の低い早朝や夕方の時間帯に散布するように心がけてください。30℃を超える日の散布作業は夕方に行ってください。

4. 除草剤ラウンドアップの大豆収穫前処理について

ラウンドアップが登録拡大されましたので、大豆落葉終期（大部分が落葉した時期）～収穫14日前の使用が可能になりました。使用する場合は、以下の点に注意し、処理を行って下さい。

ラウンドアップマックスロード：10a 当たり水量50L～100Lに対し、薬量500ccを希釈して散布する。

※大豆の青立ち株や水分含有量の高い雑草がありますと、しわ粒、汚損粒の原因になるので散布前に除去等を行って下さい。